

国語

注 意

1. 問題は全部で 21 ページである。
2. 解答用紙は(その 1)(その 2)がある。(その 1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HB の黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ○ を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が 1 のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
---	----------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

—
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

私たちはものを考えるときに、表象、ジャーナリズム、書物という、思考のための三つの空間のいずれかに身をおくか、あるいはそれらを横断しています。大学生として大切なことは、それらを混同しないで意識的に横断できるようにすることです。

表象というのは、英語でいうとレプリゼンテーション、フランス語でいうとルプレザンタシオンです。「ル」というが「再び」という意味を表し、「プレザンタシオン」が「出現させる、プレゼントする、人前で発表する」ということを意味しますから、「再||現前化作用」と言われることもあります。いずれにしても、「いま目の前にないものをあたかもあるかのように見せる働き」をいいます。しぐさでも、言葉でも、絵画でも、音楽でもよいのですが、人間が何かを 2 しようとするとき、そのこと自体を表象あるいは表象作用と呼ぶことができます。

人類は遠い昔から、この表象の空間に住んでいました。たとえばフランスのラスコーというところに有名な洞窟があります。その洞窟の壁には、私たちの遠い祖先が描いたシカやウシの絵があります。言葉をもっていたかどうかはオク^アにしても、彼らはずでに絵を描くことはできたわけです。ところで、ギリシャの哲学者プラトンは、認識論の基礎ともなった「洞窟の比喩^a」という有名な話のなかで、外の太陽の光はあまりにも眩^ましいゆえに、人類は「洞窟」の壁面に映る影やそこに描かれるイメージをたよりに、ものを考えるようになったと言いました。つまり、自然から守ってくれる洞窟のような暗いところで、私たちは火をおこし、その明かりによって生じる影のような言葉によって、考えるようになったのです。

目の前にないものをあたかもあるかのごとくに見せることが表象であるとすれば、そのときに目の前にあるのはイメージにかすぎません。「サクラ^b」というと、私たちは桜をイメージしますが、目の前に桜の木がなくとも、サクラという音のひびきによって頭のなかに桜のイメージがわきます。しかしフランス人は、サクラとは言わずにスリジエと言います。そしてそのときに彼らが思い浮かべるイメージは、日本の桜とは違ってサクランボを採るためのたんなる果樹にしかすぎません。イメージは独り歩きを始め、そのなかに私たちが閉じ込められるということもあるのです。人類は、勇気とか、忍耐とか、愛とか、死といった

抽象名詞を手に入れ、そのようにして精神的な存在となりましたが、それと同時に、不在の幻惑にさらされるようにもなりました。死を恐れ、愛を求め、勇氣をフルい、悔やんだり、愚痴をいい、悩んだりするようになりました。生きるためには不在の幻惑と闘わねばならなかったのです。

私たちの先祖にとつて、地平線の日没は聖なるドラマであつたと思われれます。曇りや雨の日もあるとはいえ、太陽を父とし、大地を母としてこの地上に生きる人類は、日没の光景のなかに、地上におけるその生誕の秘密と、その未来における運命が読みとれると思うようになりました。一九世紀末のフランスに生きたマラルメのような詩人にとつても、日没の光と影のドラマを言葉に翻訳することが、詩人の役目にはかならないのでした。

表象にはじつは上演という意味もあります。聖なるドラマの舞台である地平線は、こうして教会や劇場の舞台の原型となつたのでした。教会、劇場あるいはコンサートホールにおいては、地平線をじかに見ることができない人たちのために、日没の再上演(ルブレザンタシオン)が行なわれています。日没の光と闇の変容を翻訳することは、マラルメのような詩人ばかりでなく、オペラやシンフォニーを書く音楽家にとつてもひそかな願ひであつたのでした。

表象の空間は、私たちに、自然とは何か、宇宙とは何か、存在とは何かと問いかけることを許しました。そしてそこから神秘的なものへの信仰や、真理を探究するための科学的思考も生まれました。また言葉に内在するイマジネールな知を駆使することで、地上に生きる喜びを文学として表現できるようにもなりました。宗教と科学はいずれ対立するようになりますが、その対立を文学が調停することで、表象の空間はずっと維持されてきたのです。

表象が中世以前から存在していたとすれば、ジャーナリズムは近代になつてようやく成立したということが出来ます。それはすべての人に知や情報を共有させることによつて、デモクラシーを正しく機能させようとするものです。そこにおいては、自然や宇宙における真理や神秘よりも、人間社会のなかでの真実や正義が問題となります。

私たちは普通このジャーナリズムの空間のなかで暮らしています。社会や、職場や、家庭において、私たちはつねに、どのように行動すべきか、どのように話すべきか、真実とは何か、正義とは何かを考へないわけにはいかないし、それらの問いに対し

て、自らの責任で答えねばなりません。途方に暮れて夕陽を眺めているときに、何らかのよいアイデアがひらめくことはあっても、コンセンサスは地平線のように到達しがたいため、場合によっては、多数決のようななしかたで政治的な解決が図られるしかありません。

ジャーナリズム空間にいる私たちは、かつてのように夕陽を見ることはできても、そこで何が語られているかを理解することはできません。しかし夕陽をみつめてぼんやりしているときに、私たちは表象の廃墟にひとり佇んで（たず）いるのかもしれない。この地上に生きていることの神秘と、人間のつくる社会の正義がどのような関係にあるのかわからなくなって、途方に暮れているのかもしれない。

たとえばフランスでは、第三共和政のころにジャーナリズムと表象はパラレルに存在するようになりました。一八八九年にエッフェル塔が建てられたときには、すでにジャーナリズムの空間は成立していましたが、それによって表象の空間が崩壊したわけではありませんでした。ノートルダム大聖堂がもはやパリの中心ではありえなくなったり、人々はエッフェル塔を建ててその代わりとしたのですが、それでもノートルダム大聖堂は壊されることなく残ったのです。パリはこうして、二つの中心をもつ楕円のような都市となり、そのなかで表象空間とジャーナリズム空間を往復できる「知識人」のような人々も誕生しました。

最後に、書物という、シイのためのもう一つの空間について語っておきたいと思います。この空間においては、本を読むというの、そこから情報を得ることはありません。それはその白いページのうへの黒いインクを追いながら、地平線の光と闇のドラマを読むことです。だから読まれるべき本も、書店の店頭につき重ねられているハウツウ本ではなく、また聖書やコーランのような聖典とは限らず、いつでも読み返すにたる自分にとっての「古典」であらねばなりません。たとえば博士論文を書くときには、生涯をかけて明らかにしたいと思うようなテーマを見出さねばならないのですが、その対象となるような本は、まさに自分にとっての「古典」となるでしょう。というより、そのようにして選んだ一冊の本を介して、私たちは、シイがそこに生きている「書物」という空間を読むことになるのです。

私たちは、ジャーナリズムのなかで考えることに疲れると、夜寝る前などには

3

余計なことを考えないために本を

開いて、そこにある文を追い、遠くの日没を眺めて眠りに就いたりするものです。そのときに選ぶ本は、4「古典」とは限らず、好きな作家の小説や、趣味の雑誌かもしれません。しかし5それらのページは、翼となって私たちの精神を解き放ち、扇となって埋もれ火を掻き立て、私たちにふたたび情熱を見出させてくれるのです。6私たちは、表象でもなくジャーナリズムでもない空間に遊んでいます。おそらくみなさんも、大学にいるあいだにそのようにして「書物」の空間に入り込み、自分のための一冊の本を見出すのであらうと思います。

(岡山茂「ハムレットの大学」による)

*イマジネールな⇨想像的な、想像力の、などの意。

*コンセンサス⇨意見の一致、合意、統一見解、などの意。

*第三共和政⇨一八七〇年に成立したフランスの共和政体。一九四〇年にナチス・ドイツがフランスに侵攻し、ヴィシー政権が成立するまでの間続いた。

問一 二重傍線部ア～ウの言葉を漢字にするとして、正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号

は 1 3。

ア オク ① 跡く ② 措く ③ 逸く ④ 外く ⑤ 除く

イ フルい ① 慄い ② 吻い ③ 故い ④ 震い ⑤ 奮い

ウ シイ ① 示威 ② 思唯 ③ 思為 ④ 思惟 ⑤ 恣意

問二 空欄 1 に入る文法用語として最適なもの次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 4。

- ① 反復音 ② 形容辞 ③ 接頭語 ④ 修飾詞 ⑤ 頭韻

問三 空欄 2 に入る言葉として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

- ① 象徴 ② 交換 ③ 贈与 ④ 表現 ⑤ 鑑賞

問四 傍線部 a「洞窟の比喩」とはどのようなことを言っているか。その説明として適切ではないものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 6。

① 目の前の現実がただちに真理というわけではない。

② 影は実体ではないが、洞窟の中には影にすぎないものがある。

③ われわれが現実に見ているものは、影にすぎない。

④ 人類が言葉をもつ前には絵を言葉の代わりとして真実を描いた。

⑤ 生まれてからずっと洞窟の中で暮らしている者は真実を知らない。

問五 傍線部 b「サクラ」というと「以下の日本とフランスを比較した部分は、何を述べようとしているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 7。

① 実体とイメージとの間の結びつきは必然的でも固定的でもない。

② 柔らかな音、鋭い音など、言葉の響きはイメージに連動している。

③ 言語と文化の違いに対する感性を育てることが、相互理解の第一歩である。

④ 日本の文化は情緒的であり、フランスの文化は即物的だといえる。

⑤ イメージに惑わされないなら、桜は食生活の実用にかなう果樹にすぎない。

問六 傍線部c「イメージは独り歩きを始め」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

8。

- ① イメージとは、実体のうちのある一面だけを強調するものである。
- ② 現代的メディアを介して発信される情報は必ずしも必要なものばかりではない。
- ③ 人間の思考はしばしば目の前にあるものよりもイメージをもとにして展開される。
- ④ 自分自身で現物と比較できないようなイメージをたよりに判断してはならない。
- ⑤ ジャーナリズム空間において、人は実体なきイメージに踊らされがちである。

問七 傍線部d「地平線の日没」に、この文章はどのような内容を与えているか。その例として適切ではないものを次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は9。

- ① 地平線の日没が人類の生誕の神秘、生きることの意味を啓示した。
- ② 地平線の日没を前にして宇宙とは何か、存在とは何か、について瞑想した。
- ③ 地平線の日没から神秘的なものへの信仰や真理を探究するための科学的思考が生まれた。
- ④ 地平線の日没を前にして詩人や音楽家は芸術的靈感を得た。
- ⑤ 地平線の日没を前にして過ぎて行く一日の名残や一つの時代の変容を感じとった。

問八 傍線部 e「途方に暮れて」(二箇所)の理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

10。

- ① 「なにが真実か」と「なにが正しいか」とが区別されなくなってしまったから。
- ② 自らの考えを持ち、正しいと思ったことを主張しなければならぬという強迫観念が強まったから。
- ③ 「地平線の日没」の意味を解釈してくれるはずの司祭や詩人が嘘を言うようになったから。
- ④ 正義とは何であり、真実とは何であるかを自分一人で考えなければならなくなったから。
- ⑤ 多数決で決めたにもかかわらず、それを認めようとしぬ者が出現しはじめたから。

問九 傍線部 f「二つの中心をもつ楕円のような都市」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答

欄番号は 11。

- ① 古いものを断念し、次々と新しい価値を生み出していくことで自らを再生させる都市
- ② 自国の伝統文化を保持するとともに多様な世界文化の中核として機能する都市
- ③ 真理や神秘を重視する価値と市民社会の倫理を重視する価値が並行して存在する都市
- ④ 西欧中心主義的な価値観と先端の技術を誇った初期近代の産業文化都市
- ⑤ 保守的な人々と、変わり続けることに価値を見出す人々とは政治的レベルで対立する都市

問十 空欄

3

6

に入る語の組み合わせとして最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答

欄番号は 12。

- ① むしろ―必ずしも―それでも―そのとき
- ② おそらく―それでも―必ずしも―たとえば
- ③ 必ずしも―また―それでも―むしろ
- ④ いつでも―それでも―必ずしも―むしろ
- ⑤ おそらく―必ず―それでも―とはいえ

問十一 この文章の内容と合致するものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 13。

- ① 工業化された時代を象徴的に表現するエッフェル塔は、その新奇な姿の魅力によって、あらゆる神秘的なものの価値を一挙に追い払った。
- ② 司祭や詩人のいないところで自立した市民として生きる現代人は、自らに必要な情報を選択し、それを自ら解釈しなければならなくなった。
- ③ ジャーナリズムというシステムは、誰もが知や情報を共有できるようにすることで民主主義を支え、それ以前の権威主義的な社会空間を消滅させた。
- ④ ジャーナリズムの空間が成立し、そのなかに取り込まれると、人は「地平線の日没」などに何の関心も払わないようになっていった。
- ⑤ 自分にとって必要な情報をかき集め、独断に陥り、そのことに苦しむようになった現代人は、今一度神への畏怖の念をとりもどさなければならぬ。

二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

おのれいと若かりける時、母刀自の前に、古き人の書けるものどもの在るが中に、香具山を、

いにしへの事は知らぬを我見ても久しくなりぬ天の香具山

子の唐へ行くを、その母、

旅人の宿りせむ野に霜降らば我が子羽ぐくめ天の鶴群

題しらす、

1 したにのみ恋ふれば苦し紅の末摘花の色に出でぬべし

など、いと多かり。こをうち読むに、刀自のたまへらく、「近頃、そこたちの手習ふとて言ひ合へる歌どもは、我がえ詠まぬ

おろかさには何ぞの心なるらむもわかぬに、このいにしへなるは、さこそとは知られて、心にも沁み、唱ふるにも安らげくみや

びかに聞ゆるは、いかなるべき事とか聞きつや」と。おのれもこの問はするにつけては、げにと思はずしもあらねど、下れる世

ながら名高き人たちのひねり出だし給へるなるからは、さるよしこそあらめと思ひて、黙しをるほどに、父のさしのぞきて、

「誰もさこそ思へ。いで物習ふ人はいにしへに復りつつまねぶぞと、賢き人たちも教へおかれつれ」などぞありし。にはかに心ゆ

くとしもあらねど、「承りぬ」とて去りにき。

5 とてもかくても、その道に入り給はざりけるけにやあらむなどおぼえて、過ぎにたれど、さすがに親の言なれば、まして身ま

かり給ひては、書見、歌詠むごとに思ひ出でられて、古き万の書の心を人にも問ひ、おぢなき心にも心をやりて見るに、おのづ

からいにしへこそと、まことに思ひ成りつつ、年月にさる方になむ入り立ちたれ。しかありて思へば、先に立ちたる賢しら人に

率^{あども}はれて、遠く悪き道にまどひつるかな。知らぬぢちも、心静かに求めゆかば、なかなか良き道にも行きなまし。歌詠まぬ人

こそ、直きいにしへ歌と、苦しげなる後のをしも、弁だめぬるものなれと、今ぞまよはし神の離れたらむ心地しける。

ものの始め、悪く入り立ちにしこそ苦しけれ。万よこしまにも習へば、心となるものにて、もとのやまと魂を失へりければ、

たまたま良き筋の事は聞けども、直く清き千代の古道には行き立ちがてになむある。こを譬へば、高き山に登るがごとし。もと
繁き山口を押し分けて、木の根蔵がね、いゆきさぐくみ、汗もしとどに息も喘ぎつつ、辛くして峰に至りぬ。かく至りてば、仰
ぎ向ひてし山々をも見下し、行きて見ぬ国の奥処も見明らかれつつ、今こそ心の雲霧も晴るけて、世に広く暗からざめりとお
ほゆ。さてしもあらぬは人の心にて、いでや雲風にもなごか乗らざらむと、思ひ進まるれば、躍り上り飛び上がりならはすに、
あやしきわざしも習はば習ひつとおぼえて、似なく誇らしく独笑まひをしつつ経るなりけり。

しかあるほどに、ある時、ゆくりなく、雲に飛ばむも下らずやはあらむ、風に乗らむも行く方こそ極みあなれ、あやしのわざ
やてふ心の出で来ぬれば、いつとなくその高嶺をも下りまかりて、元の麓に降りぬめり。さて静心になりては、あやしき心ず
さみにもありつるかなと思ひなれば、万夢の醒めたらむ暁のごとぞおほえける。この時に至りて、また古き書を見、歌をも唱
へ試みれば、かのあやしく進めるみだりわざはなくて、ただこの麓へ降り下りたる心にぞありける。しかしてこそいにしへ人の
心は良く貴かりけるものと思ひ知らえぬれ。

(賀茂真淵『歌意考』による)

* 香具山 香具山は奈良県橿原市の東部にある山。古代に特別な山として神聖視され、「天の」と冠された。

* 末摘花 べニバナの別名。

* 率はれて 引き連れられて。

* 弁だめぬる 区別してしまふ。

* 心となるものにて 本性となるものであり。

* 木の根蔵がね、いゆきさぐくみ 木の根や岩に苦労しながら進み。

* 奥処 奥深い所、果て。

* あやしきわざ 不可思議な、仙人の術。

問一 傍線部1「したにのみ……」の和歌についての左の説明文の空欄に、最適な和歌の修辞名を漢字二字で記せ。解答用紙(2)を使用。

この歌の「紅の末摘花の」は、思いが外にはつきりと表れることを、ベニバナの鮮やかな紅色でたとえる。 である。

問二 傍線部2「我がえ詠まぬおろかさには何ぞの心なるらむもわかぬに」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 14。

- ① よい歌が詠めない私には、それらの歌のような風雅な心を詠むことは難しいのに
- ② 歌が詠めない愚かな私には、それらの歌はどのような心を歌ったのかも理解できないのに
- ③ 歌の教養のない私には、それらの歌に託された裏の意味を読み取ることができないのに
- ④ 歌とは無縁な愚かな私にも、それらの歌がどのような心を歌っているかわかるのに
- ⑤ 歌があまり詠めない私には、どのような心持ならば歌が詠めるのか、全く見当がつかないのに

問三 傍線部3「さこそ」は、ここではどのようなことを言っているのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 15。

- ① それこそつまらないものだ、ということ。
- ② そうは言うけれども、よいところもある、ということ。
- ③ 意味がわかりやすすぎて、拍子抜けする、ということ。
- ④ あまりに貴く畏れ多く近づきたい、ということ。
- ⑤ ほんとうにそうだと共感できる、ということ。

問四 傍線部4「黙しをる」とあるが、筆者はなぜ黙っていたのか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマ

ークせよ。解答欄番号は **16**。

- ① 母の疑問はもつともだと思いながらも、後世の歌には手本にするだけの理由があると思ひ込んでいたから。
- ② 歌の修業に邁進する自分に対して、母があまりに無理解であることを不満に思ったから。
- ③ 母の疑問は歌の素人ながら鋭いものであったので、後世の歌を慎重に研究した上で答えようと思ったから。
- ④ 歌の知識のない母の疑問は取るに足らないもので、ともに答える必要などないと思ったから。
- ⑤ いにしえの歌についての知識の浅い自分には、母に反論できるだけの準備がなかったから。

問五 傍線部5「その道に入り給はざりけるけにやあらむ」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は **17**。

- ① いにしえの歌人たちは歌の神髓を極めていらつしやらないからか
- ② いにしえの歌人たちは学問をお修めにならなかったのだから
- ③ 父母は歌を学ばれていらつしやらないからであろうか
- ④ 父母が学問をお修めになつていらつしやらないからである
- ⑤ 後世の歌人たちは昔の賢人たちの教えをきくと知らないだろう

問六 傍線部6「さる方」の内容を具体的に示した箇所を、これよりの以前の文章の中から二十字以内(句読点を含む)で抜き出し、その最初の五字を記せ。解答用紙(その2)を使用。

問七 傍線部7「知らぬどちも、心静かに求めゆかば、なかなか良き道にも行きなまし」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **18**。

- ① 私を直接知らない人たちでも、順序立てて歌の道を求めるならば、なかなか良い道を進むことになるだろう。
- ② 知らない者同士であっても、心静かに互いを理解しようとしたので、正しい道が見えてきたのだ。
- ③ 道徳を知らない者でも、もし心静かに理想を追い求めるならば、きっと人の道にかなうだろう。
- ④ 教養がない人たちでも、落ち着いて物事を考えたので、自ずと解決の糸口を発見したのであった。
- ⑤ 無知な人たちでも、もし冷静に道求めてゆくならば、かえって正しい道を行くことになるだろう。

問八 傍線部8「なか乗らざらむ」を現代語に訳せ。解答用紙(その2)を使用。

問九 傍線部9「似なく誇らしく独笑まひをしつつ」とは、どのような心の状態を表しているか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **19**。

- ① 仙人の術を習得できて、喜びと畏れの両方を感じている状態。
- ② すべてを解明した気になって、優越感に浸っている状態。
- ③ 長年の疑問を独力で解決でき、大きな解放感を味わっている状態。
- ④ 今までの苦勞がばかばかしいと、自分の愚かさにあきれている状態。
- ⑤ 困難を乗り越えてきた自分を、ほほえましく思い返している状態。

問十 傍線部10「雲に飛ばむも下らずやはあらむ、風に乗らむも行く方こそ極みあなれ」で筆者が表そうとしていることは何か。

その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 20。

① 雲に乗って飛び、風に乗って世界の果てまで行ったように思っても、それが一場の夢に過ぎないことを覚り、学問の空しさを実感すること。

② 雲に乗って飛んだとしてもやがて地上に降り、風に乗ったとしても限界に突き当たることを知ること、幻想の楽しさを味わい、この世を生きる苦しみを忘れること。

③ 天上世界の雲や風に乗ることによって、かえって地上の美しさを発見するという逆説を、小さな存在である人間というものは体験することになること。

④ 仙人のように雲に乗ったとしても、やがて地上に降りなければならず、風に乗ったとしても、やがて行き着くところがあることに気づき、冷静になること。

⑤ 仙人のように、雲から降りることはなく、風に乗って世界の果てまでも速くに行けるはずだと確信し、ますます自分の力を信頼すること。

問十一 傍線部11「元の籠」は何をたとえているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

21。

① 先に立ちたる賢しら人

② 行きて見ぬ国の奥処

③ 直く清き千代の古道

④ 下れる世ながら名高き人たち

⑤ おぢなき心

問十二 この文章の筆者賀茂真淵は国学者である。国学者を次の①～⑤の中から一人選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

22。

① 本居宣長

② 末広鉄腸

③ 幸田露伴

④ 井原西鶴

⑤ 藤原定家

三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

チャップリンの映画『独裁者』のなかで、“What time is it?”というセリフが出て来る場面が二度あった。最初はシュルツという負傷した士官が砲兵のチャップリンに助けられて飛行機で脱出する途中でこうたずねる。この時飛行機は [1] 飛んでいるのだが、二人とも雲海の中にいてそのことが分らない。チャップリンが懐中から時計を出すたちまち、時計は鎖からニョッキリと眼の前にそびえ立って彼をおどろかす。二度目は、ゲットー(ユダヤ人街)で乱暴をはたらいた揚句、アンナにフライパンでされた突撃隊員の一人が意識をとりもどして立ち上って、真っ先という言葉がやはりこれである。私は最初の時はただゲラゲラ笑っただけだったが、再度同じセリフが出て来たときには「オヤ」と思った。「いま何時だ」という問いはもともと日常的なありふれた言葉だから、同じ映画に二度出て来てもべつに不自然ではないともいえるが、それが使われた情景との関連を考え、さらには、床屋の時間感覚の喪失ということが、あの映画のギャグ全体を貫く筋金になっていることなどを思い合せると、どうもただのセリフではなさそうな気がする。つまりそこで問われているのは、『モダン・タイムス』や、さかのぼっては、『ゴールド・ラッシュ』に直接つらなっているような、そういう「時代」^{タイム}ではないかということである。

そういう目で見ると、チャップリンは、現代とはいかなる時代かを執拗に問いつつ、くりかえし同じ規定を以て答えているように見える。それは「逆さの時代」^{逆さの時代}ということである。何をもちて「逆さの時代」というか。それは常態と転倒した出来事がある、ち、ち、ちに見られるとか、人々の認識や評価が時折狂いだすとかいうような [2] 事象をこえて、人間と社会の関係そのものが [3] 倒錯している時代、その意味で倒錯が社会関係のなかにいわば構造化されているような時代ということである。『モダン・タイムス』の冒頭の著名なシーン——囲いのなかに追い込まれる羊の群に、工場に吸い込まれる出勤時の労働者の群をかぶせたシーンがすでにそうした構造的倒錯の暗示であった。しかもチャップリンがそこで戯画化したのは、マルクスが百年も前に古典的定式を与えた、労働過程における機械と人間の倒錯だけではなくて、一九世紀における予言者たちの想像をもはるかに越えた規模と深さにおいて——たとえばテクノロジーによる深層心理の開発と操作の問題一つをとれば十分であろう——

現代生活に浸透した「人間の自己疎外」のさまざまな局面なのである。食事という人間のもっとも原初的な「自然」な欲求さえも、能率のための能率の崇拜によって自由な選択を奪われる(モダン・タイムス)。いや、自由な選択を「奪われる」段階さえも通り越して、いまや商品の購買から指導者の選出まで、「自由な選択」それ自体が宣伝と広告によって造出されるのだ。かつてはともかく「再創造」という意味付けを与えられていた娯楽やスポーツまでが巨大な装置となつて大衆を吸い込み、規格化する。「プロデュース」とは現代では価値の生産ではなくて、なにより価値の演出なのである。

しかし「What time is it?」という問いのシンボリックな意味は、

4

現代が逆さの世界であるという事実命題の提示

だけではない。とくにあの飛行機の場面での重要な暗示は、「逆さの世界」の住人にとつては、逆さの世界が逆さとして意識されないという点なのだ。倒錯した世界に知性と感覚を封じ込められ、逆さのイメージが日常化した人間にとつては、正常なイメージがかえつて倒錯と映る。ここでは非常識が常識として通用し、正気は反対に狂気として扱われる。

5

時計は鎖から

逆上し、水は水筒から噴出するのである。これが意識を喪失している間に世界が一変したことを知らずにわが家へ立ちかえつて来た床屋を待ちもうけていた運命であつた。彼は何事も知らないから、きわめて普通の常識にしたがつて普通に行動する。ユダヤ人の店先のガラスに勝手に「ユダヤ人」とペンキでぬりたくるのは、以てのほかの非礼であるから彼は

6

平然と突撃

隊員の目の前でそれを消す。なんの罪もない市民や婦女を集団的にいじめるのは街のギャングのすることだから、彼はギフンを感じて制止しようとする。かけつけた突撃隊員を彼は服装から警官と思つて、乱暴者をとりしずめてくれと訴える。彼の判断や行動はどれもきわめて自然のだが、それが一つ一つ、この世界ではとんでもない無鉄砲なことか、あるいは異常な勇気を要すること——いずれにしてもまさしく不自然なことなのだ。このチグハグが私達の滑稽感をさそう。この滑稽感は、床屋の世界

——ゲッター——の出来事に私達が情緒と共感をもつてではなく、われ関せず

7

の見物人として、「純粹理知」をもつ

てたいしていられるからである。日常性の倒錯は自然の流れにたいするこわばりを示すからこそ好んで喜劇の題材として扱われる。役割の交換も何が何ととりかわっているかが観客に自明であるからこそ狂言になる。だが『独裁者』における倒錯は一見するよりはるかに複雑である。あの時のあの世界における日常性を所与とすれば、床屋の行動はまさに転倒しているが、実はその日

常性自体が「逆さの世界」における日常性だとするならば、転倒しているのはトメニア国の全体なのであり、真すぐに立っているのは、床屋とその周囲のほんのみにぎりの人間にすぎない。私達は一体どちらの日常性の側から、どちらの倒錯を笑っているのか。『独裁者』にしても『モダン・タイムス』にしても、そうした現代における日常感覚の分裂の問題をなまなましく提出しているからこそ、そこでの滑稽感はほとんどツウク感と背中合せになって私達に迫って来るのである。

(丸山真男「現代における人間と政治」による)

*『独裁者』＝一九四〇年公開の映画。監督であるチャールズ・チャップリンが「床屋のチャーリー」と「独裁者ヒンケル」の一人二役を演じた。架空の国家トメニア国を舞台にして、アドルフ・ヒトラーの独裁政治をコミカルに風刺した。喜劇のなかにナチス政権下で迫害されていたユダヤ人の苦難を描きこんでいる。

*突撃隊＝ヒトラーのナチス党を補助した準軍事組織。

*『モダン・タイムス』、『ゴールド・ラッシュ』＝どちらもチャップリンが監督、主演した映画。『ゴールド・ラッシュ』は『黄金狂時代』という邦題で紹介されることが多い。

問一 二重傍線部ア「ギフン」、イ「ツウク」を漢字で記せ。解答用紙(その2)を使用。

問二 空欄 1 に入る言葉として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 23。

- ① 逆さに
- ② 音速以上で
- ③ 暗闇のなかを
- ④ 地上ごく近くを
- ⑤ 追いつ追われつしながら

問三 傍線部 a「それが使われた場景」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

24。

- ① 乱暴者が弱い女性に倒されるといふ転倒した場面
- ② モダン(最新式の、近代的な)という時代性を映し出した映画
- ③ 飛行機で緊急脱出する切迫した場面
- ④ チャップリンが活躍したハリウッド映画の全盛期
- ⑤ ナチスの独裁体制を風刺的にとりあげた映画

問四 空欄

2

に入る言葉として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

25。

① 頻発する

② 反復性の

③ 習慣的な

④ 執拗な

⑤ 個別的な

問五 空欄

3

に入る言葉として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

26。

① 慣習的に

② 根本的に

③ 偶発的に

④ 猥雑にも

⑤ 精緻に

問六 傍線部 b「倒錯が社会関係のなかにいわば構造化されている」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

27。

- ① それまでの社会的規範が時とともに相対化され、違反が違反と感じられなくなる。
- ② 生活の利便性のためになされる機械化が、逆に人間を置き忘れたまま進行していく。
- ③ 人々の意見を聞くこともなく、政治的リーダーが独断で政策を決定する。
- ④ 人々の判断、行動がそれ以前の時代にはなかった奇妙なものに変わっている。
- ⑤ 社会の一部分でなく、社会を成り立たしめる規範そのものが逆転している。

問七 傍線部c「自由な選択を」奪われる「段階さえも通り越して」とあるが、通り越したあとにどうなると言っているか。最適なものを次の①～⑤から選び記号をマークせよ。解答欄番号は **28**。

① 自発的であるはずの人々の意思そのものが、宣伝と広告によってコントロールされ、作り出されている。

② 宣伝、広告があふれる騒がしい社会環境のなかで、反対意見を表明するチャンスが失われている。

③ 自由に選択するためには、経済的な余裕をはじめとするさまざまな条件が暗黙の前提となっている。

④ 選択の自由は認められているものの、現実的に選ぶことのできる選択肢は全くないか、あまりない。

⑤ 繁華街の映像や投票日の映像など、商品や政治指導者を「自由」に選ぶ人々の姿がメディアに映し出される。

問八 空欄 **4** に入る語として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **29**。

① かえって ② たんに ③ とくに ④ しごく ⑤ ところが

問九 空欄 **5** に入る語として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **30**。

① ともあれ ② しかし ③ まさに ④ えてして ⑤ すると

問十 空欄 **6** に入る語として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **31**。

① しいて ② そっくり ③ しごく ④ あるいは ⑤ しかし

問十一 空欄 **7** には、漢文調に語調を整えるための漢字一字が入る。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマ

ークせよ。解答欄番号は **32**。

① 為 ② 也 ③ 哉 ④ 焉 ⑤ 以

問十二 傍線部d「現代における日常感覚の分裂の問題」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解

答欄番号は 33。

- ① 個人はもはや自分の依拠する日常感覚が正常なのか、それとも倒錯しているのかわからなくなり、その結果、決断できる強い指導者を求めるようになっていく。
- ② 厳格な社会的規範と自由に生きようとする個人の感覚との間のずれが時代とともに広がってしまい、個人の不満、不充足感が高まってきている。
- ③ 社会的規範に反抗し異端者として振舞う姿がメディアを介してイメージアップされることで、いまや必ずしも「異端」ではなくなっている。
- ④ ファシズム期にナチス・ドイツの世界観内部の「真実」と、その外側の真実が同時に存在していたように、言語不通なまでに相容れない「真実」が同時に存在する。
- ⑤ 日常感覚は、年齢、性別、階層などによって異なるにもかかわらず、結局は力ある者の判断が普遍的で理性的だとされ、その感覚が「正統」とされる。

問十三 “What time is it?”とゆうセリフを、この文の趣旨に沿うように訳したと考えられる部分が文中にある。十五字以内で抜き出せ。解答用紙(その2)を使用。

